

発達障害のある人への合理的配慮 ～差別や体罰を無くす為に出来ること～

発達サポート Hope

代表 八嶋 利永子

自己紹介

八嶋 利永子(41) 帯広市出身・芽室町在住

- 発達サポートHope代表
- 発達の気になる子ども・HSC(人一倍敏感な子)に関する講演・講師業
- 芽室町ペアレント・メンター
- 芽室町自立支援協議会委員
- 元日中一時支援事業所・小学校支援員



知的発達症

- ・知的な遅れ

注意欠如・多動症 (ADHD)

- ・不注意 (集中できない)
- ・多動・衝動 (じっとしてられない)

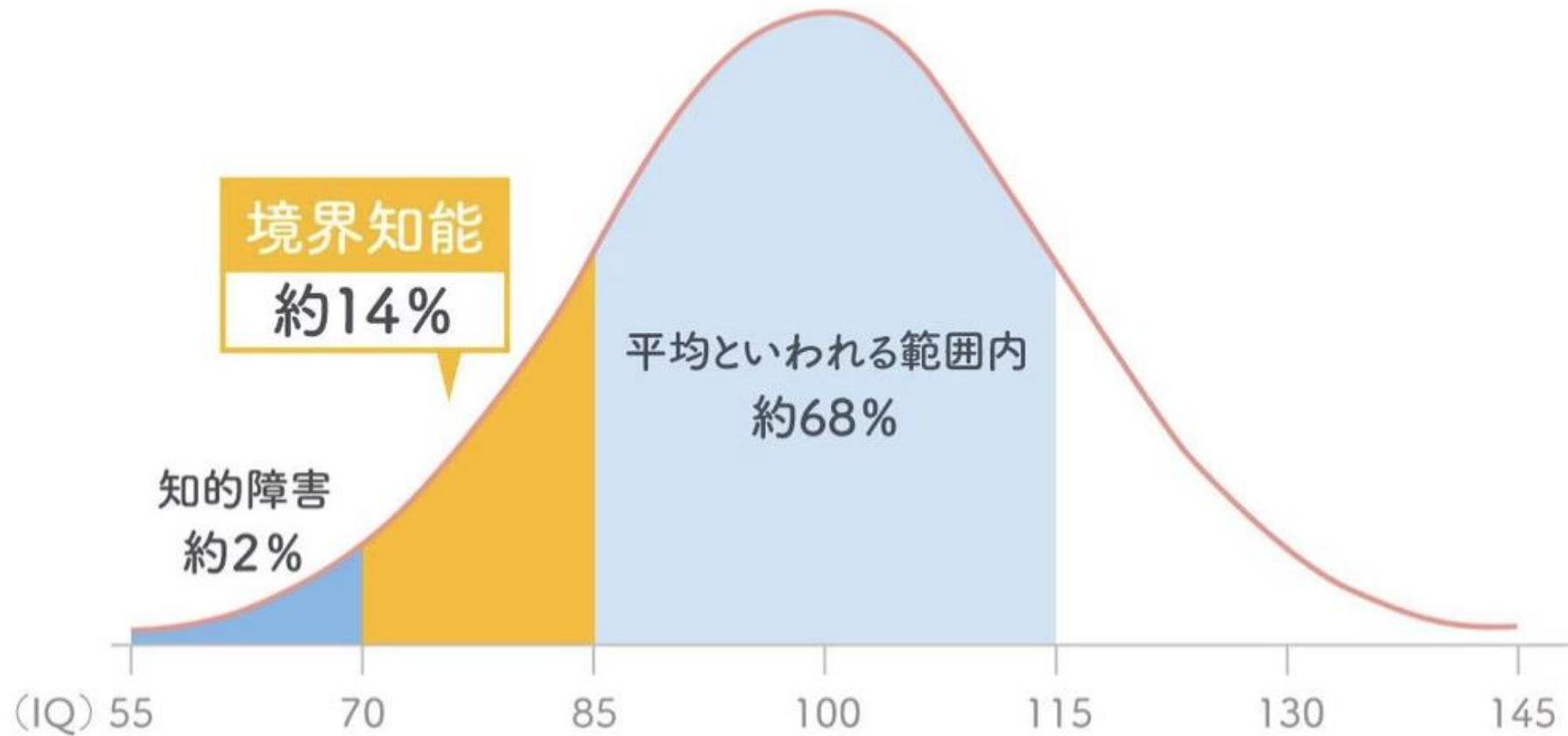
自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・コミュニケーションの
つまづき
- ・こだわりの強さや
興味の偏り

限局性学習症 (SLD)

- ・「読む」「書く」「計算」などの
力が、知的な能力に比べて
極端に苦手

IQ(知能指数)の分布



どこからが神経発達症（発達障害）？

- 多かれ少なかれ『誰しものが』何らかの特性を持ち合わせており、グラデーションの中にある
 - 診断基準を満たさないグレーゾーンも多い
 - 診断は精神科医が行う
- 『自分自身』や『周り』が困っているかどうか



織田 信長



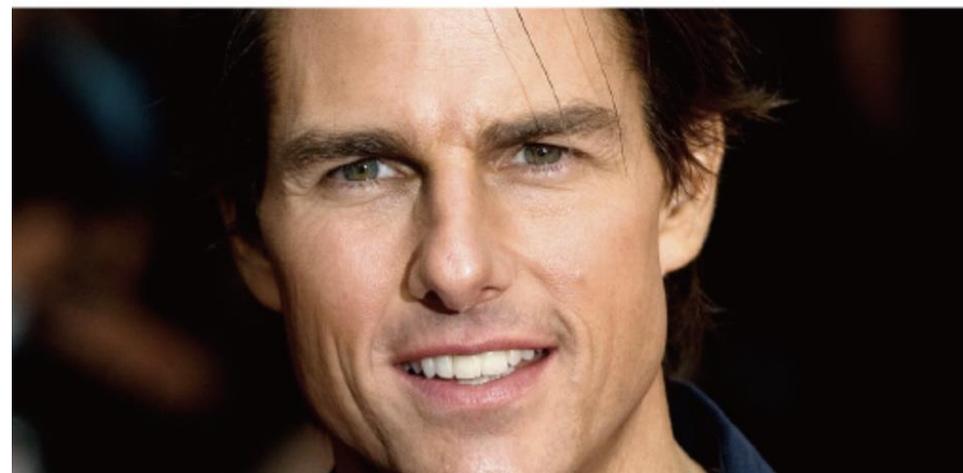
スティーブ・ジョブズ



坂本 竜馬



トム・クルーズ



息子の診断について



- 自閉スペクトラム症 (ASD)
 - 対人関係の困難・興味関心の限定・実行機能の弱さ
 - こだわりの強さ・感覚の敏感さと鈍感さ・予定の変更に対応出来ない
- 注意欠如多動症 (ADHD)
 - 多弁・脳内多動・不注意優勢型
- 境界知能 (IQ73)
 - 発達凸凹の差が大きいタイプ
- 発達性協調運動症 (DCD)
 - 歩いたり走ったりする事は出来るが、手先の不器用さや協調的な(同時に複数の動きが必要)な動作が困難

現在、中学3年生 (特別支援学級・知的クラス)

実際に見てきた事例から

『合理的配慮』とは何か

- 障害のある人が社会の中で出会う、困りごとや障壁を取り除くための『調整』や『変更』の事。
- 2006年に国連で採択された障害者権利条約(日本は2014年批推)の条文の中で盛り込まれ、障害者差別解消法で法的義務化されている。
- 教育基本法第6条第2項においても、教育の目的が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。

環境を調整する①

- 机の上に置いてあるキッチンペーパーをイタズラする
- 何度注意しても止めない
- 叱責すると不適応行動が止まるが、また繰り返す

→キッチンペーパーを片付ける（環境要因）

→イタズラすると人が来てくれる（人的要因）

反応しない（欲しい反応が得られない）事が効果的

環境を調整する②

- 授業に集中出来ない生徒を何度も注意するが、改善がされない
- 脅しの言葉や罰をほのめかす
- 脅しの言葉を真似る生徒が出てくる
- 学校に登校出来ない生徒の出現（不登校）

→作業する生徒と休憩（遊んでいる）生徒が、同じ場所にいる（環境要因）

→生徒のふざげに、教員がふざげ返している（人的要因）

教室内の構造化が必要

量を調整する

- 体育の授業（交流級）
- 処理速度に難がある児童
- 早い速度での聞き取りとノートテイク
- イライラのサインが出るもやらせる
- 『手伝ってください』の児童の要求を拒否

出来ない事を無理にやらせたり何もやらせないのでは無く、

書く量を調整する

道具を工夫する

- 授業中にふざけ、いつも手遊びをしている子。
 - 字を書こうとしない。
 - 話言葉やコミュニケーションに、難は感じられない。
 - 音読の仕方が極端にたどたどしく、特徴的な誤字の仕方をしている点に注目。視覚過敏やSLD(限局性学習症)の可能性を疑う。
 - カラーバー(バー型拡大鏡)を手渡し様子を見ると、ノート一面にびっしりと、正確に、字を書き始める。

不適応行動は、苦手さのカモフラージュの場合も多い

カラーバー(バー型拡大鏡)



かいちくんは、下校後プールに行く日があります。いつも決まった時間に来ては、入浴やお風呂のしぐさなどが決まっていますが、かいちくんは待てませんでした。

自閉症の^{じへいしょう}人には、その人のルールがあって、人に合わせることは苦手^{にがて}です。変えることがなかなかできないのです。

はるとくんが、新しいくつをいやがるのは、くつを変えたいとあのことを予想できないためです。あきさんは、「特別なこと」が苦手^{にがて}です。いつもとちがうことに、どうふるまったらいいのかわからなくなるようです。

予想しなかったことが起こると、その場でかたまりたり大声をあげたりする人もいます。

An illustration showing three children sitting around a table. The child in the center is wearing a red shirt and has a distressed expression, with their mouth open as if shouting or crying. The word 'それ' (That) is written above their head. The other two children, one in a green shirt and one in a yellow shirt, are looking at the central child. The table has some items on it, and there are chairs around it. The background is simple, suggesting an indoor setting like a classroom or a meeting.

暴力が無くても体罰になる

- 出来ない事に対して罰を与える言葉
- 出来ない事を出来ない方法でやらせる事も虐待
→道具や活動量の工夫
- 酷い言葉に『慣れさせる』という考え
→支援側の偏った成功体験
- 相手が笑っている、楽しんでいるから良いは間違い
→何を基準に楽しんでいると判断出来るのか
→言葉の意味を理解していない場合も
- 苦しさを発信出来ない人もいる
→見えない障害への理解が必要

鬱やフラッシュバック、不登校、引きこもりなどの『二次障害』に繋がる

公共の場で出来る支援

- 叱責や、曖昧な表現での声掛けはNG
 - 穏やかな声とトーンで
 - 短く、具体的な声掛け
- 視覚的支援
 - 自閉スペクトラム症は視覚優位
 - ワーキングメモリの不足を補う
 - 手順を示し、見通しを持たせる
 - 予定の変更への不安感を和らげる
 - 聞いているようで断片的にしか聞いていない場合も

合理的配慮として、年齢に関係無く必要

1		ねつをはかる	
2		すわって、まつ	
3		はなしをする	
4		ちゅうしゃをうつ	
5		ばんそうこうをはる	
6		15ふん、 すわって、まつ (30ふんになることもあります。)	
7	おわり		



Hope保護者茶話会で上がる気になる話題

- 学校や事業所についての相談が圧倒的に多い
 - 教員や職員による暴言
 - 障害特性についての理解が不十分
 - 学校や事業所によって、受けられる支援の違いに差がある
 - 環境に適応出来ずに不登校や引きこもりに
- 限局性学習症への対応が出来ていない
 - 口述試験や、試験時間の延長、文字の拡大
 - ノートテイクは音声入力や板書の写真撮影、録音

虐待や体罰を無くすために

- 研修の充実
 - 知識量や捉え方の差が大きい
 - 応用よりも基礎を何度も
- 内部告発者を守る仕組み
 - 告発者が安心して働き続けられる環境
 - 他の担当には口を出さないという、暗黙の了解を無くす
 - 複数の目で見ても、関わる

生活の中での差別や誤解

- イヤーマフ
- 多目的トイレ、更衣室
- 発達の遅れ = 虐待との決め付け

継続的な啓発活動が必要

ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席を譲る、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。



ヘルプマーク



めむろブルーハンカチプロジェクト



発達サポートHope

- 十勝発達の気になる子どもの親の会Hopeとして発足
(2017年9月4日～)
- 発達の気になる子どもを持つ保護者茶話会の実施
→帯広会場・芽室会場
(2024年4月～芽室町と共催へ)
- HSC（人一倍敏感な子）保護者茶話会の実施
- 研修会やワークショップの実施
- 子どもの体験の場の提供





子ども達の明るい未来の為に

- 不適応行動ばかりを注目されがちな発達障害者だが、特性に応じた手立て(合理的配慮)があれば出来る事が増え、自己肯定感が育まれる
- 子どもの成長は、家庭の力だけでは限定的な成長しか見込めず学校や地域の中での学びや経験が活きる
- 保護者にも生きづらさが見られる事例も多く、各関係機関との連携した支援構築が必要である

子供達がこの地域で安心安全に育ち、暮らし、生きていける環境を整えていきたい

ご清聴ありがとうございました

